



レシピ#004

R3.7.9

## 「教室に響く声は・・・？」



【伊達地区】

中学校 国語科の授業より



### 授業のワンシーン



中学3年生のスピーチの授業です。この時間で目指すのは「相手に伝わるような」説得力のあるスピーチとなるよう工夫すること。

子どもたちは、タブレットを使い自分のスピーチを録音し確認、構成メモを手直し、練習・・・を進めていきました。

その後、グループで実際にスピーチを聞き合いました。

「最初の部分で、『覚えていませんか？』と問いかける方が、聞いている人をもっと引きつけられると思うよ。」

「別の方向を向いて話してたよ。せっかく原稿を読まなくてもできるんだから、もったいないよ。相手を見なきゃ。」

「論理の展開がずれてないかな。順序を変えてみたらどうかな。」・・・等。

教室には、子どもたちの活発な声が響いていました。

スピーチで自分の考えを伝えようとする子も、友達のスピーチを聞いて身振り手振りを交えながらアドバイスする子も真剣そのものでした。



### ここがオススメ！



子どもたちが「より説得力のあるスピーチにする」ために、自分で考えながら集中して取り組む姿が印象的な授業でした。

そして、この授業で先生の説明や指示は最小限。

「いつも、自分の話はできるだけ少なく、子どもたち自身が考えることを大事にした授業を目指しています」とは先生のお話です。

子どもたちが失敗しないようにと先回りして次々と指示を出したり、あれもこれもと説明が多くなったりしていませんか。

その单元、その時間に、子どもたちに付けたい力をぎゅっと絞ること、何を考えさせるのか、**子どもたち自身が目指すゴールの姿が分かっていること**の大切さを感じさせる授業でした。

声が小さくなかなかうまく話せないAさん。それでもがんばって伝えようとします。同じ班の子たちは、その声を聞き取ろうと、体を乗り出したり、大きくうなずいたりしながら聞いていました。最後に、タブレットにスピーチを録音されたものを先生が確認すると・・・これまでに聞いたことがないくらいしっかりとした声で話すAさんのスピーチが入っていたそうです。友達の表情から「大丈夫、聞いているよ」というメッセージが伝わったのでしょうか。アドバイスをもらい、自信をもって話せたのかもしれない。

「共に学ぶこと」によって育まれる力を改めて感じました。



【参考資料Ⅰ】「主体的・対話的で深い学び」の実現へ向けて P.4、6